

京都大学図書館機構におけるデジタルアーカイブに関する活動紹介 — 京都大学貴重資料デジタルアーカイブと富士川文庫デジタル連携プロジェクト —

西岡千文

1. はじめに

京都大学では過去20年以上にわたり、古典籍等の所蔵資料の電子化に取り組んできた。近年は、京都大学オープンアクセス推進事業において、人文社会科学系研究基盤の強化を目指して、資料の電子化ならびに画像の公開を推進している。以上を背景として、2017年12月に京都大学貴重資料デジタルアーカイブを正式公開した。デジタルアーカイブは画像データの国際的な相互利用の促進を目的とした枠組みである IIIF (International Image Interoperability Framework) に準拠している。

さらに、京都大学図書館機構と慶應義塾大学メディアセンターは、富士川文庫デジタル連携プロジェクトを開始した。本プロジェクトは IIIF を活用して散逸されて所蔵されている富士川文庫資料を一堂に公開することを通じて、IIIF による分散コレクションの仮装統合を例示する。2018年9月にサイトの試行版を公開した。

本稿では IIIF について短く導入したあとに、京都大学貴重資料デジタルアーカイブ、富士川文庫デジタル連携プロジェクトについてそれぞれ紹介する。

2. IIIF

IIIF は貴重資料などの画像データのウェブ上での相互利用の促進を目的とした国際的な枠組みである。IIIF の活動は、その目的・活動に賛同する機関が参加するコンソーシアムによって支援され、2016年12月に京都大学図書館機構はコンソーシアムに加盟している。IIIF の具体的な活動として、画像データの相互利用を実現する API の定義と API に対応した画像サーバ、画像ビューワ等の各種ソフトウェアの開発が挙げられる。中核となる API は Image API と Presentation API であり、京都大学貴重資料デジタルアーカイブを含め多くのデジタルアーカイブはこれら 2 種の API のみを使用している。Image API は画像データの取得方法を規定する。Presentation API は、各ページで

の画像を表示するかといった資料をビューワで表示するために必要な情報の記述方法を定義する。Image API と Presentation API に沿って資料を公開することで、あらゆる IIIF 対応画像ビューワでの閲覧が可能となる。

3. 京都大学貴重資料デジタルアーカイブ

京都大学貴重資料デジタルアーカイブ (<https://rmda.kulib.kyoto-u.ac.jp/>) は、2017年12月1日に正式公開された。2019年3月29日現在、1万3522タイトルの115万7922画像が公開されている。資料の国際的な流通を目指して、各資料にはローマ字タイトルも付与されている。

画像の利活用を促進するために、京都大学附属図書館所蔵資料の画像データについては、自由利用が可能のように二次利用規定を改正した。改正前には、画像データ利用時に特別利用申請および学術目的以外の場合は利用料の支払いが必要であった。改正後は、画像データの所蔵館の明記と画像改編時のその旨の明示を行えば、手続きなく二次利用が可能となった。その後、二次利用規定は学内の複数の図書館・図書室にも適用され、それらが所蔵する資料の画像データも同様に二次利用可能である。二次利用規定の改正については、記事¹⁾に詳しい。

正式公開から一年が経過したことから、利用状況調査を実施した²⁾。2017年10月から2018年11月までに、約342万件のアクセス (PV) を得ている。そのうち、約4割のアクセスが海外からのものであり、それらのアクセスの多くは海外に所縁のあるコレクション (河合文庫等) や絵図入りの資料に対するものである。また、デジタルアーカイブは2種類の画像ビューワを提供しているが、どちらもほぼ同頻度で利用されている。このことは、利用者が各々の目的・嗜好に応じてソフトウェアを選択できるという IIIF の利点を示している。

4. 富士川文庫デジタル連携プロジェクト

富士川文庫は、富士川游博士 (1865~1940年) の

旧蔵書である古医書のコレクションであり、資料の多くは、『日本医学史』の編纂のために収集されたといわれている。さまざまな経緯から、コレクションを構成する資料は京都大学、慶應義塾大学、東京大学、日本大学等の複数機関に散逸している。

2018年8月29日に京都大学図書館機構と慶應義塾大学メディアセンターは共同プロジェクト「富士川文庫デジタル連携プロジェクト（通称：デジタル富士川）」に関する覚書を締結した。プロジェクトの目的として、下記の二点が挙げられる。

- ・散逸している富士川文庫を一堂に公開することで日本医史学の研究・発展に寄与する。
- ・IIIFの利点を活用した分散コレクションの仮想統合手法について共同で検討・開発し、例示する。

IIIFを活用して両学が所蔵する富士川文庫資料を統合表示する試行版ウェブサイト (http://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/rdl/digital_fujikawa/) を2018年9月28日に公開した。2019年2月8日には、東京大学大学院教育学研究科・教育学部図書室が所蔵する富士川文庫資料172件が追加され、2019年3月29日現在、計5,333件の富士川文庫資料が試行版ウェブサイトにて公開されている。

図1に試行版ウェブサイトのスクリーンショットを示す。資料の書誌情報が表形式で提供されており、各行に資料タイトル（原題、カナ、ローマ字）、著者、出版年、所蔵機関が表示される。また、Universal Viewer, Mirador, IIIF Curation Viewerで画像を表示するためのアイコンが提供されている。検索・ソートといった資料の探索のための基本的な機能が実装されている。実装については文献³⁾に詳しい。

このようなサイトを提供することで、散逸している資料のデジタル空間上での距離が小さくなり、資料の比較などが容易になる。また、試行版ウェブサイトでは資料の所蔵機関を意識せずに資料を探索・閲覧することが可能だ。しかし二次利用条件は所蔵機関・資料によって異なるので、明瞭な条件表示が重要となる。

プロジェクトの実施期間として設定した2020年度末までには、資料の追加公開や連携機関の拡大、新機能開発などを視野に入れ、試行から本稼働フェーズへ移行することを目指している。プロジェクトは特に研究支援を目的とするものであるため、当該分野やデジタルアーカイブにおける研



▲図1 富士川文庫デジタル連携プロジェクト
試行版ウェブサイト

究支援のあり方について、資料を利活用する研究者コミュニティを巻き込んで検討していく必要があるだろう。

注

- 1) 赤澤久弥、大村明美。京都大学附属図書館における貴重資料画像の二次利用自由化。カレントアウェアネスE. No.343. 2018. <http://current.ndl.go.jp/e2004>
- 2) 西岡千文。京都大学貴重資料デジタルアーカイブ利用状況報告－2017年10月4日～2018年11月30日－。2019. <http://hdl.handle.net/2433/237320>
- 3) 西岡千文。IIIFを利用した富士川文庫資料の再統合の試み。じんもんこん2018論文集。情報処理学会。pp.291-296, 2018.

謝辞

富士川文庫資料の電子化は、下記の助成を受けて実施された。（京都大学）

- ・「京都大学附属図書館所蔵『富士川文庫』保存・公開のための修復・電子化事業－わが国の医学の歴史を俯瞰する研究基盤構築のために－（機能強化経費）」（文部科学省）
- ・「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」（国文学研究資料館）
- ・京都大学重点戦略アクションプランオープンアクセス推進事業（慶應義塾大学）
- ・「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」（国文学研究資料館）
- ・慶應義塾大学メディアセンター本部/信濃町メディアセンター 2006～2018年度事業計画（経常費）

（にしおか ちふみ：京都大学附属図書館研究開発室）

[NDC10：014.7

BSH：1. デジタルアーカイブ 2. 京都大学附属図書館]